

ふるさとのかけがえのない環境を守る

～地球温暖化対策の取り組み～

私たちの日常生活や事業活動で排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの増加が原因で、地球温暖化が進んでいます。

温室効果ガスの増加は、気温の上昇や海面上昇、異常気象などを引き起こし、自然生態系や人間社会に悪影響をもたらすと予測されています。

自然豊かなふるさと鹿児島、かけがえのない地球環境を守り次の世代へ引き継いでいくため、地球温暖化対策に取り組みましょう。

県内の地球温暖化対策の取り組みを紹介します。



【県で導入した電気自動車】
車種：三菱「アイミーブ」(軽自動車タイプ)
・家庭用100V電源で14時間、200V電源で7時間で満充電、
急速充電器を利用すれば約30分で80%充電が可能。
・走行距離：160km(10・15モード走行時)



屋久島において、
CO₂(二酸化炭素)の発生が
抑制された先進的な
地域づくりを促進します。

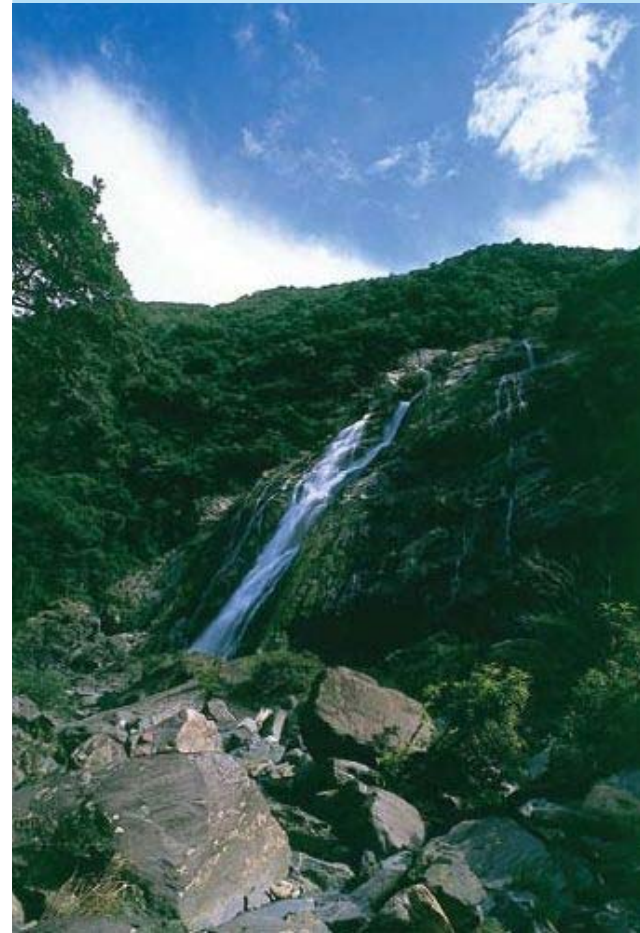
屋久島をCO₂フリーの島へ。

電気自動車の普及促進

電気自動車は、走行中には全く二酸化炭素を排出しません。今はまだ、ガソリン車に比べて走行距離が短いといった面もありますが、電気自動車は、地球温暖化対策に大きな効果がある環境に優しい移動手段として期待されています。

県は平成21年度に屋久島事務所の公用車のうち5台をガソリン車から電気自動車に転換しました。これにより、二酸化炭素は年間約11.5t(50年生人工林の杉の吸収量に換算すると821本分)削減されることとなります。

電気自動車の試乗会の開催や、電気自動車の急速充電設備の設置など、電気自動車の普及に向けた環境整備に取り組んでいます。



世界自然遺産に登録されている屋久島では、環境に優しい地域づくりが進められてきました。また、島内の電力は豊富な水を利用し、二酸化炭素を排出しない水力発電でほぼまかなわれています。

県では、屋久島を地球環境に優しい低炭素社会づくりのモデル地域として、石油やガスなどの化石燃料に頼らない、二酸化炭素の発生を抑えた先進的な地域づくりを進めています。

CO₂削減省エネ設備導入促進事業

県内に事業所を有する民間事業者などが省エネ効果の高い設備（10kw未満の太陽光発電やLED照明などの省エネルギー設備）を複合的・一体的に導入する場合などに要する経費の一部を補助します。

県庁 地球温暖化対策課 ☎099-286-2586



「省エネによる経費削減で利益を出し、それを屋久島の環境保護活動に活用できればうれしいですね」と話す菊永社長。

屋久島グリーンホテル
熊毛郡屋久島町安房788-110 ☎0997-46-3021
ホームページ <http://www.yakushima-gh.com/>

「省エネによる経費削減で利益を出し、それを屋久島の環境保護活動に活用できればうれしいですね」と話す菊永社長。

「予想以上のエネルギー消費量、二酸化炭素排出量に驚いた」という代表取締役の菊永伸喜さん。「省エネ設備の導入に意欲はあ

屋久島グリーンホテル

省エネ設備の導入を応援します。県では、企業などの省エネルギー設備の導入を支援し、事業活動に伴う温室効果ガスの排出削減を推進しています。

省エネ設備の導入を応援します。

りますが、設備の導入にはコストがかかり、費用対効果を考えてとなかなか進まないのが現状です。ただ今回、エネルギー消費量が数値としてはっきり見えたことで、今後の具体的な対策をたてることができ、改めて省エネに取り組む思いが強くなりました」。

屋久島グリーンホテルでは、照明設備の間引きや、点灯・消灯時間の管理を徹底しています。また、連泊客向けのノーマイクプランを推進するとともに、空調機器の温度設定などについて「エコライフ宣言」として掲示し、宿泊客に協力を呼びかけるなど、事業所が一体となって、できることから省エネルギー対策に取り組んでいます。



各客室に掲示している「エコライフ宣言」

落ち着いた雰囲気の屋久島グリーンホテルのロビー。

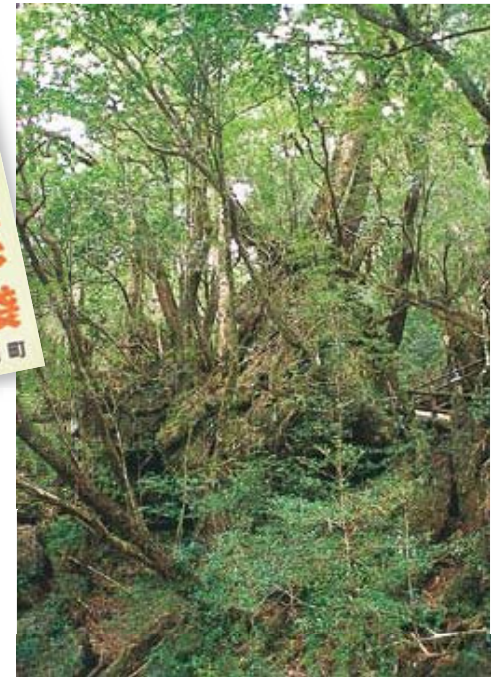


「もちろん私もマイバッグを使っています」と話す安藤さん。

NOレジ袋！

普段買い物の際に何気なく利用するレジ袋。このレジ袋の製造には1枚当たり約18ccの原油が使われ、製造時と焼却時を合わせると1枚当たり約61gの二酸化炭素を排出すると言われています。屋久島町は地球温暖化防止と循環型社会の構築に向け、屋久島全体のレジ袋削減のため、県内で初めて量販店、商工会と「マイバッグ持参運動およびレジ袋有料化に関する協定」を結び、平成21年5月から島内のほぼ全店舗でレジ袋が有料になりました。有料化により、マイバッグ普及率80%以上、レジ袋消費量年間300万枚の削減を目指しており、これによって、レジ袋の製造および廃棄焼却の際に排

出される二酸化炭素183tの削減を目標としています。「レジ袋の値段はレジ袋有料化に関する協定により1枚5円。これは店のレジ袋の仕入れにかかる金額です。レジで必ず、袋が必要か聞かれるので、私は不要なレジ袋は断っていますし、周りを見てもマイバッグを使う人が多いですね。これまで有料化による苦情などはなく、レジ袋の削減は進んでいると思います」と屋久島町環境政策課の安藤 幸尋さん。「現在、木質ペレットなど環境に優しい新エネルギーの普及を検討しています。屋久島の豊かな自然環境を守るためにも、今後も地球温暖化対策に取り組んでいきます」。



ふなま こうすけ
Aコープ宮之浦店 副店長 船間 浩助さん

「レジ袋有料化後、レジ袋の使用量は以前の10分の1程度に減っています。店のごみ箱に捨てられるレジ袋の量も減りました。だいたいお客さまの10人に1人が袋を購入し、あとはほとんどマイバッグが使われますね。

当店では、照明や空調機器などの点灯・消灯時間を決めて無駄のないよう管理しています。また、商品を入荷する際の梱包材を再利用するなど、なるべくごみを出さないよう気をつけています」。

